TOYOTOMI

トヨストーブ

ダブルクリーン®

取扱説明書

型式 **RC-325SE**（アール シー エス イー）

自然通気形
開放式石油ストーブ
日本工業規格品

このたびは本品をお買いあげいただきまことにありがとうございます。

●ご使用になる前に、必ずこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しく使用してください。
この「取扱説明書」は、保証書と共に大切に保管しておいてください。

●取扱説明書を紛失された場合は、お買上げの販売店にご相談ください。

もくじ

株式会社トヨトミ

W06-2

7408000902

安全のために必ずお守りください

●お使いになる人や他の人への危害と財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しく使用するために、必ずお守りいただくことを説明しています。
●ここに示した表示は、誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

⚠危険(DANGER)	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う危険、または火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
⚠警告(WARNING)	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意(CAUTION)	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

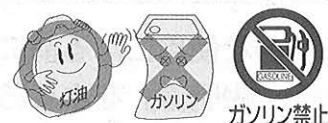
●お守りいただく内容を、次の絵表示で区分しています。

	この絵表示は、「禁止」されている内容です。		この絵表示は、「注意」していただく内容です。
	この絵表示は、必ずしていただく「指示」内容です。	●説明文中の**「お願い」**事項は、本機を誤りなく正しくお使いいただくための内容が記載されています。	

⚠危険(DANGER)

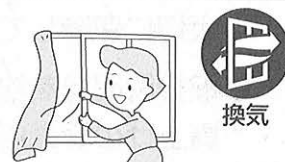
★ガソリン使用禁止

ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。
少量の混入でも、火災の原因になります。

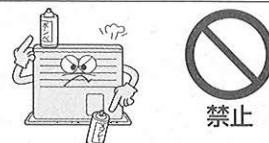
ガソリン禁止

⚠警告(WARNING)

★換気必要

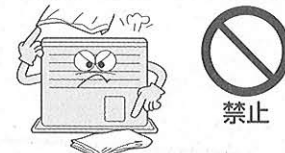
- 換気せずに使用しつづけないでください。
  酸素が不足すると、不完全燃焼し、一酸化炭素などが発生して中毒になるおそれがあります。
- 使用中は必ず1時間に1～2回(1～2分)換気して、新鮮な空気を補給してください。
  (窓の凍結、地下室など)換気が充分におこなえない場所では、使用しないでください。

換気

★スプレー缶厳禁

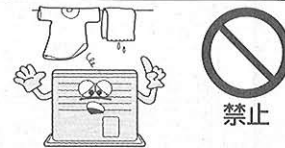
スプレー缶やカセットこんろ用ボンベなどを、ストーブの上や前に放置しないでください。
熱で缶の圧力が上がり、爆発し、危険です。

禁止

★カーテン、可燃物近接厳禁

カーテンや燃えやすいもののそばなどでは使用しないでください。
ストーブの前に可燃物を置かないでください。
ストーブの熱気で着火して、火災の原因になります。

禁止

★衣類の乾燥厳禁

衣類などの乾燥には使用しないでください。
乾燥するとストーブの熱気でゆれて落下して、火災の原因になります。

禁止

★寝るとき消火

寝るときや外出するときは、必ず消火し、火が消えていることを確認してください。
予想しない事故が発生するおそれがあります。

消火

★給油時消火

給油は、必ず消火し、ストーブの温度が充分に下がってからおこなってください。
火災の原因になります。

消火

★油漏れ危険

- 給油口口金は確実に締めてください。
  給油口口金を下にして、油漏れがないことを確かめてください。
  給油口口金を斜めに締めたりすると、簡単に給油口口金がはずれて、火災の原因になります。
- 油タンクから油が漏れる状態では絶対に使用しないでください。火災の原因になります。

確認

★可燃性ガス使用厳禁

ストーブを使用している部屋で、可燃性ガスが発生するもの(ガソリン、ベンジン、シンナー)や、スプレーを使用しないでください。
火災や故障の原因になります。

使用禁止

⚠警告(WARNING)

★やかんのせ禁止

やかんなどをのせないでください。
振動や接触によって、やかんの落下や、やかんの熱湯がこぼれ、やけどのおそれがあります。

⚠注意(CAUTION)

★居室内給油禁止

給油は、必ず火の気のないところでおこなってください。
火災のおそれがあります。

★変質灯油禁止

変質灯油(持ち越した灯油など)、不純灯油(灯油以外の油・水・ごみが混入した灯油など)を使用しないでください。
異常燃焼や故障(しんが下がらない、点火できない、火が消えない)の原因になります。

★燃焼中移動禁止

火のついたまま持ち運ばないでください。
やけどのおそれがあります。また、転倒すると火災になるおそれがあります。

★移動・運搬するときの注意

- ストーブを移動する場合は、必ず消火し、ストーブの温度が充分下がってから、油タンクを取り出し、傾けないように静かに移動してください。
- 修理・引越しなどで、ストーブを運搬される場合は、電池ケースから乾電池を取りはずして、油タンクを取り出し、油受けざらの灯油を必ず抜いてください。
  運搬の途中に灯油がこぼれて、周囲を汚すおそれがあります。

★異常時使用禁止

におい、すすの発生、炎の色など異常燃焼を起こしたときは、使用しないでください。
緊急の場合でもあわてずに、しんを下げて消火してください。

★燃焼筒のガラス割れ使用禁止

燃焼筒の外筒(ガラス)が欠けたり、割れて破損したままの状態では、絶対に使用しないでください。
異常燃焼を起こしたり、すすが発生するおそれがあります。

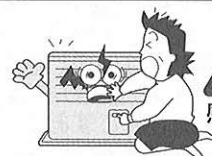
★正常燃焼の確認

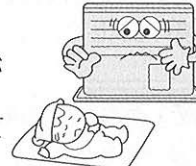
燃焼中は時々炎を見て、正常燃焼していることを確かめてください。
しんが上がりすぎたり、燃焼筒がずれていると、すすが出て異常燃焼を起こして危険です。

★高温部接触禁止

燃焼中や消火直後は、高温部、天板(ストーブの上面)やガードに手などふれないよう注意してください。
やけどのおそれがあります。

★高電圧注意

点火装置は、点火時に高電圧が発生します。点火プラグに不用意にさわらないでください。
感電のおそれがあります。
掃除、点検・手入れをするときは、必ず乾電池を取りはずしてからおこなってください。

★ふく射熱に長時間あたらない

ストーブの間近でふく射熱に長時間あたりつづけると、低温やけどや脱水症状になるおそれがあります。
とくに、幼いお子様やお年寄り、体の不自由な方や病気の方などの暖房には充分に注意してください。

★ほこりの除去

反射板、置台、製品内部のほこりをときどき除去してください。
前板の下から燃焼用空気を吸込みますので、紙、ビニールなどを入れないように注意してください。
ごみ、ほこりなどがつまると、異常燃焼や火災の原因になります。

⚠注意(CAUTION)

★対震自動消火装置の作動確認

使用開始時と、使用中は１箇月に１回以上、対震自動消火装置を作動させて確実に消火することを確かめてください。
確実に消火しないときは使用しないで、すぐに修理してください。

確認

★純正部品の使用

しんなどの部品は、必ず**トヨストーブ**純正部品(指定された部品)を使用してください。
純正部品を使用しないと、ストーブの性能を損なうばかりでなく、故障や予想しない事故が発生するおそれがあります。

指示

★分解修理・改造の禁止

故障、破損したら使用しないでください。
ストーブは絶対に改造して使用しないでください。不完全な修理や改造は危険です。

分解禁止

★触媒、脱臭フィルター使用禁止

市販の触媒や脱臭フィルターをストーブに取り付けたり、燃焼筒の上にのせたりしないでください。
異常燃焼や火災の原因になります。

使用禁止

★お子様やお年寄りのご使用に注意

お子様やお年寄り、体の不自由な方がお使いになる場合は、ストーブの取扱い、部屋の換気、高温部への接触によるやけど、低温やけどや脱水症状などについて周囲の人が充分に注意してください。

注意

★保管時にしていただくこと

- 長期間使用しないとき又は保管するときは、必ず灯油を抜いて、電池ケースから乾電池を取りはずしてください。
  傾けたり、横倒しの状態では保管しないでください。
  火災のおそれがあります。
- しんの手入れ(から焼きクリーニング)は、風があたる場所ではおこなわないでください。
  火災のおそれがあります。

指示

★廃棄するとき

ストーブを廃棄処分するときは、必ず油タンク、油受けざら内の灯油を抜き取り、電池ケースから乾電池を取りはずしてください。(17ページ参照)
灯油や乾電池が入ったまま廃棄するとリサイクルの際、予想しない事故が発生するおそれがあります。

指示

★次の場所では使用しない

火災や予想できない事故や故障の原因になります。

使用禁止

水平でない場所、不安定な場所

- 傾斜した場所や振動の激しいところでは、使用しないでください。
  対震自動消火装置が誤作動することがあります。
- しっかりしたじょうぶな床面で使用してください。
- 移動車両の中や、不安定な台の上で使用しないでください。
  転落したり、火災になるおそれがあります。

暖炉などストーブが囲われる場所

- 暖炉や押入れに入れての使用など、特殊な使いかたをしないでください。
  火災の原因になります。

ほこりや湿気の多い場所

- 粉類や繊維を取扱う場所や温室・養鶏場など、塵やほこりの多い場所では使用しないでください。
  燃焼用空気(酸素)を取入れる箇所が目づまり状態になり、異常燃焼を起こすおそれがあります。

温室・飼育室など人のいない場所

- 使用環境の変化で、予測しない事故が発生するおそれがあります。

風のあたる場所、部屋の出入口、屋外

- 風のあたる場所や屋外では使用しないでください。
  炎が出て危険です。
  掃除機の排気があたらないよう注意してください。
- 部屋の出入口など人の通る場所、人がぶつかったりつまずく場所で使用すると、転倒して事故や火災が起きるおそれがあります。

不安定な物をのせた棚などの下

- 落下物により火災が起きるおそれがあります。

直射日光のあたる場所、温度の高い場所

- 異常燃焼を起こすおそれがあります。
- 油タンクの灯油があふれ出て火災のおそれがあります。

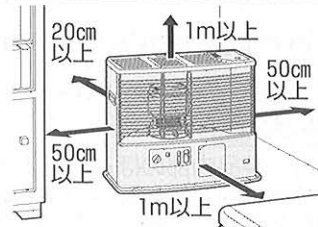
可燃性ガスの発生する場所、またはたまる場所

- 爆発や火災の原因になります。

理・美容院、クリーニング店などスプレーや化学薬品を使う場所

- 化学薬品がストーブの熱で変化し、器具の故障や、腐食性ガスの発生により金属・鏡・ガラスなどを傷める原因となります。

★可燃物(木壁、合板、ふすまなど)との距離を離す

- ストーブから可燃物との距離は、右図の指定以上の距離を保つようにしてください。
- ストーブ上方の棚などとの距離は必ず１m以上あけてください。
- 上方の棚などからの落下物がないようにしてください。
- カーテンなどがストーブにふれないようにしてください。
- 家具等からは右図の指定以上の距離をとってください。
  (熱で変形や変色、自然発火することがあります。)

距離

お願い(NOTICE)

★灯油の廃棄　●灯油の廃棄処分は、灯油をお買い求めになった販売店にご相談ください。

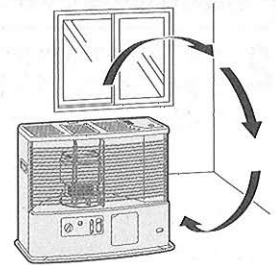
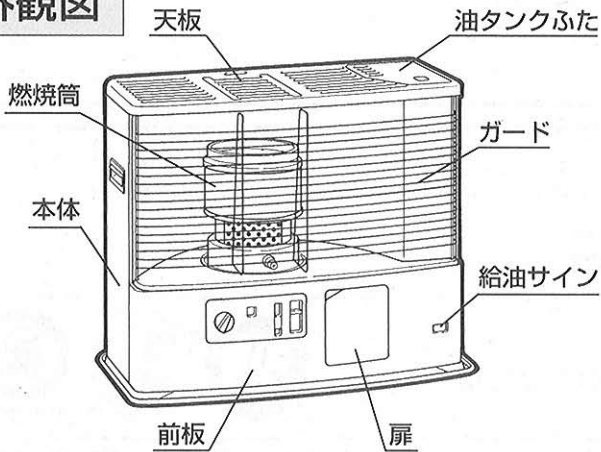
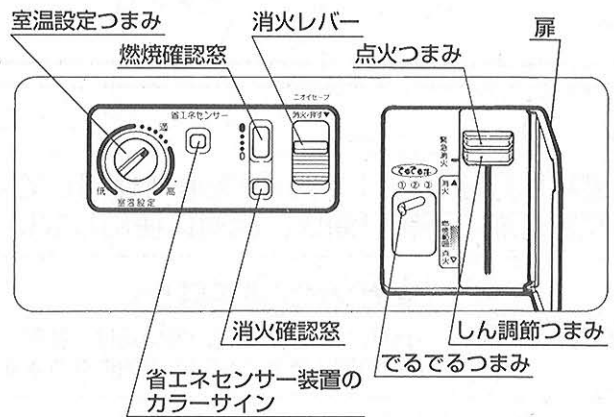
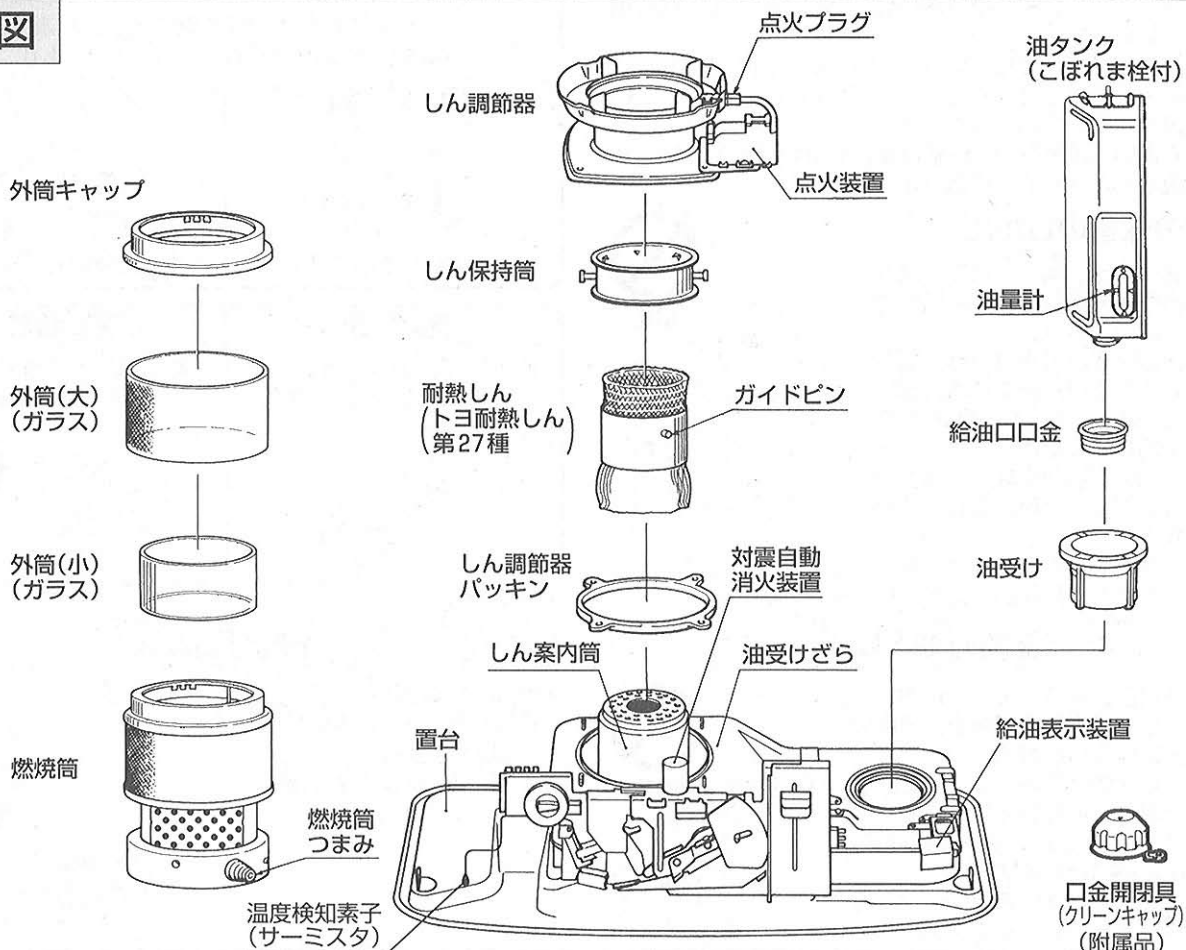
使用する場所

★効果的に使用するために

- 外気に接する窓の下や壁面など、冷気の入ってくる場所にストーブを置くと、冷気がストーブで暖められて上昇対流しますので、お部屋の温度のムラが少なくなり、効果的な暖房ができます。
  ただし、部屋の出入口や人の通る場所、風のあたる場所、可燃物のそばには置かないでください。
- お部屋の空気をサーキュレータなどで対流させますと、お部屋の温度のムラがより少なくなり、効果的に暖房ができます。(このときストーブには直接風をあてないでください。)

各部のなまえ

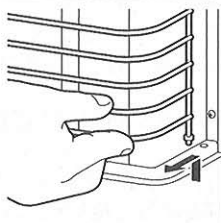
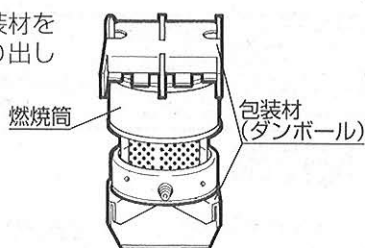
構造図

点火プラグ
しん調節器
点火装置
油タンク
(こぼれま栓付)
外筒キャップ
しん保持筒
油量計
外筒(大)
(ガラス)
耐熱しん
(トヨ耐熱しん
第27種)
ガイドピン
給油口口金
外筒(小)
(ガラス)
しん調節器
パッキン
対震自動
消火装置
油受け
しん案内筒
油受けざら
置台
給油表示装置
燃焼筒
燃焼筒
つまみ
温度検知素子
(サーミスタ)
口金開閉具
(クリーンキャップ)
(附属品)

使用前の準備

ストーブを取り出す

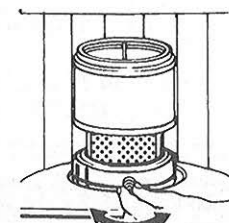
1 包装箱に表示してある「包装の内容」をごらんになったうえで、包装箱から包装材を取り除き、製品を傷付けないように取り出してください。

お願い
包装材は可燃物ですから、必ず取り除いてください。

2 ガードの右下すみを少し持ち上げて手前に引き、ガードを開けてください。

3 燃焼筒を納めている包装材を取り除き、燃焼筒を取り出してください。

燃焼筒をセットする

1 燃焼筒の外筒(小)の浮き上がりがないか調べてください。浮き上がりがあると、異常燃焼を起こすおそれがあります。
浮き上がりがありましたら、外筒(小)を下に押さえて、きちんとはめ込んでください。

2 燃焼筒をしん調節器の上に正しくセットしてください。

3 燃焼筒つまみを左右に2～3回動かし、燃焼筒が正しくセットされているか確かめてください。

4 ガードを、もとの位置に閉じてください。

燃　料

◉燃料は灯油(JIS 1号灯油)を必ず使用してください。
◉変質灯油、不純灯油は、絶対に使用しないでください。

⚠危険 **★ガソリン使用禁止**
ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。
少量の混入でも、火災の原因になります。

- 誤ってガソリンなどの燃料を使用したことがわかったときはあわてずに、しん調節つまみを「緊急消火」の位置まで強く引き上げて消火してください。
- 変質灯油(持ち越した灯油など)、不純灯油(灯油以外の油・水・ごみが混入した灯油など)は、絶対に使用しないでください。異常燃焼や故障の原因になります。
- 市販されている助燃剤(添加剤)は使用しないでください。異常燃焼を起こすおそれがあります。

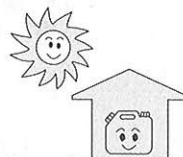
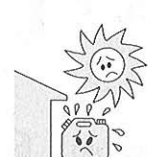
灯油とガソリンの見分けかたのポイント

指先に使用燃料をつけて息を吹きかけます
(火の気のない所でおこなってください)

○ 灯　油	× ガソリン
濡れたままです。	すぐに乾いてしまいます。

◉灯油の保管のしかた

- 灯油は必ず火気、雨水、ごみ、高温および直射日光を避けた場所に保管してください。
- 灯油の容器は専用のきれいな容器を使用してください。また灯油容器は必ずJIS認定品で色つきの灯油専用容器を使用してください。
- 灯油容器内の灯油が少ないと温度変化により結露して水がたまることがあります。
- ドラム缶などで、長期間大量に保管しないでください。
- お子様の手のとどかない所に保管してください。

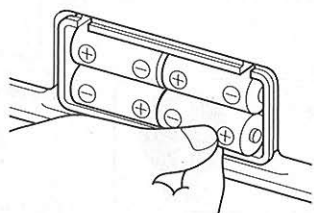
良い保管	悪い保管
直射日光、雨水が当たらず、火気のない冷暗所へ保管	直射日光、雨水の当たるベランダなど、室外の保管

変質灯油とは

- 古い灯油。(ひと夏持ち越した灯油)
- 長期間、日光の当たる場所や、温度の高い場所に保管した灯油。
- 容器のふたが開けてあったり、乳白色の容器で保管した灯油は変質しやすい。
- 変質のひどいものは黄色味をおびたり、すっぱいにおいがします。
- 変質を防ぐため灯油は翌シーズンに持ち越さないようにしてください。

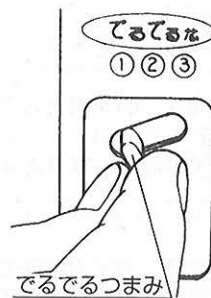
不純灯油とは

- 灯油以外の油(ガソリン、シンナー、天ぷら油、機械油、重油など)がほんの少しでも混入した灯油。
- 水やごみが混入した灯油。

乾電池を取り付ける

- 乾電池は別売です。
- 市販の単二形乾電池（４個）を購入の上、本体後側の電池ケースに、⊕⊖を正しく合わせて入れてください。

- 新しい乾電池と古い乾電池、種類の違う乾電池を混ぜて使用しますと、点火できなかったり、点火しにくくなったり、液漏れや破裂する原因になります。

でるでるつまみの位置の確認

操作部の扉を開け、**でるでるつまみ**が、①の位置にあることを確認してください。違っていましたら①にしてください。
（詳しくは11、12ページをお読みください。）

お願い

製品の輸送中に生じた外筒（ガラス）の破損、燃焼筒の変形、ねじのゆるみや、はずれなどがないか調べてください。

お使いになる前に

変質灯油・不純灯油の見分けかた（コップに水を入れ、次に灯油を入れて背後に白い紙をあてます。）

水と同じ無色透明なら正常。	少しでも色がついていたら使用しない。	●変質灯油や不純灯油の見分けかたはたいへん難しいので、メーカーのはっきりしない灯油は使用しないでください。
灯油 水 白い紙	灯油 水 白い紙 使用禁止	

変質灯油や不純灯油を使用すると

- 変質灯油や不純灯油を使用しますと、しんに多量のタールがたまり、しんの先端が固くなったり、点火しにくくなったり、しんが上下しにくくなったり、炎が大きくならなくなったり、激しいにおいがしたりします。また、消火時にしんが下がらず火が消えなくなります。
- 水の混入した灯油を使用しますと、しんが上下しにくくなったり、油タンクに灯油が残っていても炎が小さくなり、異常燃焼を起こして激しいにおいがしたり、火が消えたりします。
- ガソリン、シンナーなど、揮発性の高いものが混入した灯油を使用しますと、火災の原因になります。

万一変質灯油や不純灯油を使ったときの処置のしかた

1. 油タンクや油受けざら内の悪い灯油を抜き取り、良質の灯油で内部を２～３回洗浄してから良質の灯油に入れ替えてください。
（悪い灯油が残っていると再発します。）
2. しんの手入れ（16ページ参照）を見て、しんの先端の固くなっている部分を、ラジオペンチなどで軽くつぶしてから、から焼きクリーニングをおこなってください。
（水が多量に混入した場合は、しんを取り替えてください。）
3. しんの手入れをおこなっても効果のないときや、水が多量に混入している場合は、しんを取り替えてください。
しんの取替えは、販売店までお問い合わせください。

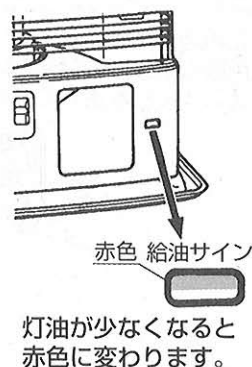
お願い

変質灯油や不純灯油が原因でアフターサービスを依頼されたときは、保証期間中でも有料修理となります。

給油のしかた

- このストーブには、給油の目安を示す「給油サイン」がついています。
- 油タンクに灯油があるときは、「給油サイン」の色は**「緑」**ですが、灯油が少なくなると**「赤」**に変わります。
  ストーブを使用するときは、ときどき給油サインを見て、灯油があるかどうか確認し、灯油がなくなる前に給油してください。
- 「給油サイン」の色が**「赤」**になりましたら、消火して、給油してください。

赤色 給油サイン

灯油が少なくなると赤色に変わります。

⚠警告	給油は、必ず消火して、ストーブの温度が充分に下がってからおこなってください。 火災の原因になります。	消火

⚠注意	給油は、必ず火の気のないところでおこなってください。 火災のおそれがあります。	禁止

1 油タンクを取り出す。

- 油タンクを取り出し、給油口口金を、左「↺」に回して取りはずしてください。
- 附属品の「口金開閉具」を使用しますと、灯油で手を汚さずに給油口口金の開閉ができます。
- 給油口口金を取りはずす前に、先端の弁部を押すと、給油口口金が開けやすくなります。

2 油量計を見ながら給油する。

- 市販の給油ポンプの先端をジャバラの手前まで差し込んで、油量計を見ながら給油してください。(ホースが抜けないように注意しながら給油してください。)
- 灯油は、油量計のほぼ上部(右図の ← 給油位置)まで給油してください。
  入れ過ぎますと、あふれ出ることがありますので充分注意してください。

お願い

- 油タンクの中にある**「こぼれま栓」**の弁が、給油口の近くまで上がっているときは、弁を下へ押し下げてください。
- 油タンクの中にある**「こぼれま栓」**は、給油口口金がはずれたときに、油漏れを防ぐ装置ですので、取りはずさないでください。

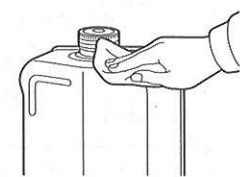
3 給油口口金を右「↻」に回して、しっかり締める。

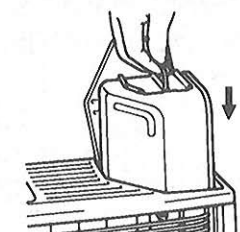
⚠警告	給油口口金は確実に締めてください。給油口口金を下にして、油漏れがないことを確かめてください。 給油口口金を斜めに締めたりすると、簡単に給油口口金がはずれて、火災の原因になります。	確認

- 附属品の「口金開閉具」を使用すると、灯油で手を汚さずに締めることができます。
- 油タンクから油が漏れる状態で使用しないでください。
  火災のおそれがあります。
- 同時に多数の油タンクに給油する場合は、類似している給油口口金がありますので、間違えないようにしてください。
  油がでなくなったり、故障の原因になります。
- 灯油容器のふたも、しっかり締めておいてください。

〔本機の給油口口金〕

4 こぼれた灯油はよくふき取る。

- こぼれた灯油は必ずきれいにふき取ってください。危険ですし、燃焼中に臭気を発生する原因にもなります。

5 油タンクをセットする。

- 附属品の「口金開閉具」を使用した場合は、「口金開閉具」を取りはずしてください。
- 油タンクを、本体に正しく、ゆっくりとセットしてください。

お願い

オート給油ポンプ(自動停止装置付)を使用する場合

- 市販のオート給油ポンプ(自動停止装置付)のなかには、**「こぼれま栓」**と干渉して、次のような不具合状態になり、正しく給油できないものがあります。
  〔不具合〕 1 スイッチをいれると、すぐに停止してしまう。
  (処置) ● 油タンクに差し込むホースのセンサー部の位置(方向)を変える。
  (処置) ● ポンプの乾電池の消耗度を確かめる。消耗していれば交換する。
  2 自動停止しない。灯油があふれてしまう。
  (処置) ● ポンプの取扱説明書にしたがって、固定具の位置を調節する。
- **上記の処置をしても正しく給油できない場合は、直ちに給油を中止し、他の給油ポンプ(手動式ポンプなど)を使用して、正しく給油してください。**

点火前の確認

- ストーブの上方や周囲、置台の上に、布類や紙やマッチなど、可燃物がないことを確認してください。可燃物があると火災のおそれがあります。
- ストーブが水平で安定した場所に設置してあることを確認してください。

燃焼筒のセットを確認する

点火操作をする前には、必ず燃焼筒が正しくしん調節器にセットされているかどうか、燃焼筒つまみを左右に2～3回動かして、スムースに動くことを確認してください。

対震自動消火装置のセット

- 点火つまみ（上側のつまみ）としん調節つまみ（下側のつまみ）を**「点火」**の方向（⬇）にゆっくり止まるまで押し下げると、対震自動消火装置は自動的にセットされます。
- この操作をおこないますと、点火することがあります。

点火のしかた

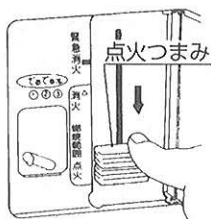
- 初めてお使いになるときは、点火後、器具に付着しているほこりや油が焼けるにおいがしますが、しばらくお使いいただければにおいはなくなります。
- 点火後しばらくの間は、炎が安定せず、「ボッ、ボッ、ボッ」と燃焼音がしますが、異常ではありません。しばらくすると炎が安定し、音がしなくなります。

お願い

使い始めや、しんの交換後、しんの手入れ（から焼きクリーニング）をしたときは、給油後約15分以上待って、しんに充分な灯油が吸い上げられてから点火してください。充分に吸い上げられていない状態で点火しますと、しんを傷めます。

電池点火のしかた

1 点火つまみ（上側のつまみ）としん調節つまみ（下側のつまみ）を、同時にゆっくり押し下げる。

- 扉を開け、点火つまみとしん調節つまみを同時に、**「点火」**の方向（⬇）にゆっくり完全に止まるまで、押し下げてください。（しんが上がり点火します。）
- 点火操作の途中で「ピィー」と、スパーク音（メロディー音）がしますが、点火つまみはそのまま止まるまで押し切ってください。

2 火が着いたことを確認する。

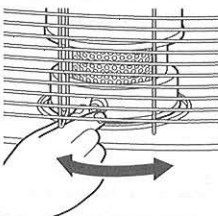
- 火が着いたことを確認したら、手を点火つまみからゆっくりはなしてください。（点火つまみだけが上方に戻ります。）
- 火が着いた後も点火つまみを押し下げたままですと、乾電池の消耗が早くなります。またカーボンが付着して、点火しにくくなる原因になります。

点火しにくい場合は

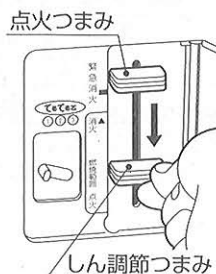
- 点火プラグ付近から白煙が出て点火しにくい場合は、点火つまみを静かに少しだけ戻して（手の力を抜く）ください。それでも点火しにくいときは、しん調節つまみを一旦少し上げてから、もう一度点火つまみとしん調節つまみを同時に、ゆっくりと押し下げると点火しやすくなります。

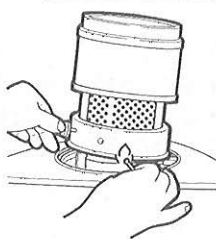
- 13ページの「しんの修正」の項も参照してください。（ゆっくりと操作することがコツです。）
- **しんにタールやカーボンが付着したり、点火プラグが汚れてくると、点火しにくくなります。**
  →しんの手入れ、点火プラグの掃除をおこなってください。（13・16ページ参照）
- 乾電池の電圧が不充分で点火しにくい場合は、新しい乾電池〔単二形乾電池4個〕をご購入のうえ交換してご使用ください。

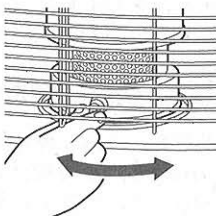
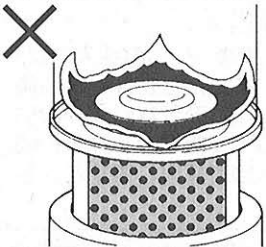
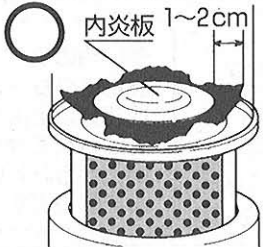
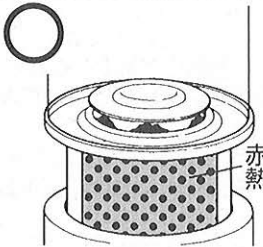
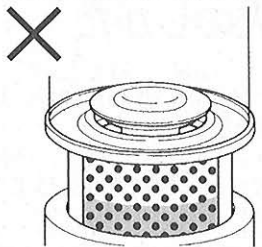
3 燃焼筒のセットを確認する。

点火操作後、燃焼筒つまみを左右に2～3回動かし、燃焼筒が正しくしん調節器にセットされているか、しんの上にのっていないかを必ず確かめて扉を閉めてください。

電池点火が使えないとき

1 しん調節つまみ（下側のつまみ）を、ゆっくり押し下げる。

扉を開けしん調節つまみを**「点火」**の方向（⬇）に、ゆっくり止まるまで押し下げてから、手をゆっくりはなしてください。（しんが上がります。）

2 マッチや市販の点火用ライターで点火する。

- ガードを開けて、燃焼筒つまみを右か左に動かしてから、持ち上げ、マッチや市販の点火用ライターなどを使ってしんに火を着けてください。
- たばこ用のライターで点火しないでください。
- **マッチで点火した場合は、マッチの燃えかすをしん付近や器具内に落としたり、置台の上に置かないでください。**
  事故や火災の原因になります。

3 燃焼筒のセットを確認する。

- 火が着いたことを確認したら、燃焼筒つまみを左右に2～3回動かし、燃焼筒が正しくしん調節器にセットされているか、しんの上にのっていないかを必ず確かめて扉を閉めてください。ガードを閉じてください。
- マッチや点火用ライターで点火したときは、火が着いたことを確認したら、しん調節つまみを少しだけ（点火した火が消えない程度に）消火の方向に戻してみて、引っかかりがなくスムースにしんが下げられることを確認してから、もう一度しんを上げて使用してください。
  しん調節つまみがスムースに戻らないときは、燃焼筒を持ち上げて、しんを完全に下げてから、点火操作を始めからやり直してください。

炎の調節のしかた

炎の調節

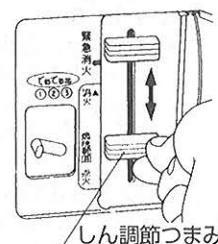
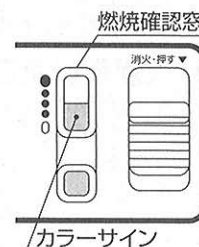
- **炎の調節は、自動でおこなう省エネセンサー装置(自動しん降下装置)と、しん調節つまみを上下しておこなう調節の２通りの方法でおこなうことができます。**
- 省エネセンサー装置(自動しん降下装置)で、炎を調節するときは、省エネセンサー装置の使いかた（9、10ページ）および、省エネセンサー装置の取扱い上の注意(10ページ)を参照してください。
- しん調節つまみを上下して炎を調節するときは、 **炎の状態** をよく見て、必ず正常燃焼の範囲で使用してください。(炎を調節すると、燃焼確認窓の「カラーサイン」も連動して動きます。)

炎の状態

最大正常燃焼のときの炎の長さは、内炎板から１～２㎝です

異　常	正　常	正　常	異　常
×	○ 内炎板 1~2cm	○ 赤熱	×
しんの上げすぎ (炎が大きく伸びている)	最大正常燃焼	最小正常燃焼	しんの下げすぎ (赤熱部が充分に赤熱しない)
すすや一酸化炭素が 多く発生する	炎が内炎板から 1～2㎝出る状態	赤熱部全体が赤熱して 炎が少し出ている状態	においや一酸化炭素が 多く発生する

◉炎の大きさは上図のように、正常燃焼の範囲でご使用ください。

- 点火後５分ほどで、燃焼筒の下部が徐々に赤熱し(赤くなる)、炎が上がってきます。
  10分ほどで、炎は全周ほぼ揃いますので、しん調節つまみを上下して炎を調節してください。

- 炎の調節は、燃焼確認窓に「カラーサイン」の「赤色」が見えている範囲でおこなってください。
- 炎は全周均一には揃いません。上図 **炎の状態** の絵のように４つに割れます。前後左右に伸びた炎の長さは、それぞれ異なりますが、その比率が１対2.5くらいでも正常です。

火力を弱くする場合の注意

- 火力を弱くした場合でも、燃焼筒の下部の赤熱部が、充分に赤熱している状態で使用してください。
- あまり火力を弱くすると、においや一酸化炭素が多く発生し、しんにタールが付着します。

しんの高さ調節(でるでる芯)について

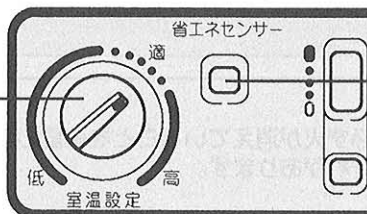
炎の大きさは、使用時間の経過につれて、燃焼筒の酸化、耐熱しんの劣化によって小さくなってくることがあります。
しん調節つまみを押し下げ(省エネセンサー装置のカラーサインはグレー)、しんを最大に上げた状態にしても、炎が大きくならないとき、または、省エネセンサー装置が作動したとき(カラーサインは緑色)に、燃焼筒の下部の赤熱部が充分に赤熱しない場合は、11、12ページの **でるでる芯の使いかた** の項を参照して、しんの高さの調節をしてください。

- 変質灯油や不純灯油を使用してしまい、しんにタールが付着したり、水を含んでしまったときは、炎が大きくならないとともに、しんの上下操作が重くなります。このようなときは、16ページ **しんの手入れをする** の項を参照してしんの手入れをしてください。

省エネセンサー装置(自動しん降下装置)の使いかた

- 省エネセンサー装置は、ストーブ本体内に装備した温度検知素子(サーミスタ)によって、ストーブ付近の温度を検出するとともに、「室温設定つまみ」の示す目盛の温度以上になると、自動的にしんが下がって弱燃焼（最大正常燃焼状態から約25～30%低下した燃焼状態）に切り替わる装置です。切り替わる時に、しんを下げるため「ガチャン」と作動音がしますが正常です。安心してお使いください。
- 乾電池を取り付けていないと省エネセンサー装置は使えません。

室温設定つまみ

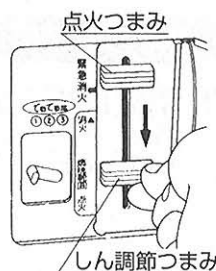
つまみを回して、温度を設定します。

省エネセンサー装置のカラーサイン

■セットすると「**グレー**」になります。

■作動すると、解除されて「**緑色**」になります。

1 省エネセンサー装置をセットする。

省エネセンサー装置は、しん調節つまみを下へ止まるまで押し下げるとセットされます。
(点火操作をすると、省エネセンサー装置がセットされます。)

- このとき、省エネセンサー装置の「カラーサイン」は、「**グレー**」になります。

2 室温設定つまみを回して、温度を設定する。

省エネセンサー装置の「室温設定つまみ」を回して、「**適**」表示の範囲内に温度を設定してください。

温度目盛	ストーブ付近の温度
適	**約20～24℃範囲**
高	約30℃
低	約15℃

- ストーブ付近の温度と室温とは異なりますので、目安としてお使いください。

室温設定つまみ

3

ストーブ付近の温度が室温設定の温度より高くなると、省エネセンサー装置が作動して、自動的に弱燃焼に切り替わります。この時に、しんを下げるため「ガチャン」と作動音がします。そして省エネセンサー装置のセットは解除されます。

- このとき、省エネセンサー装置の「カラーサイン」は、「**緑色**」になります。

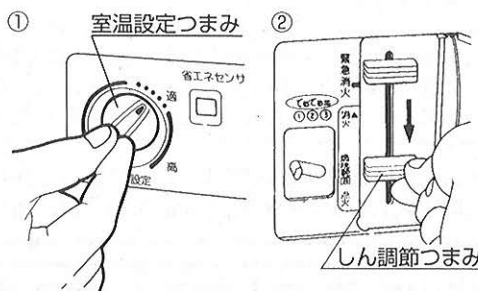
省エネセンサー装置の取扱い上の注意

1 ストーブを、電気カーペットや床暖房の上では使用しないでください。
省エネセンサー装置の温度検知素子(サーミスタ)が、電気カーペットや床暖房の熱を感知して、省エネセンサー装置が誤作動することがあります。

2 省エネセンサー装置が、室温設定の温度で作動(カラーサインは「緑色」)した後は、しん調節つまみで炎を大きく調節しても、自動的にしんが下がって弱燃焼になってしまいます。

- 炎を大きくしたい場合は、
  ①「室温設定つまみ」を「**高**」方向へ少し回して、室温設定の温度を高くしてください。
  ②しん調節つまみを押し下げて、省エネセンサー装置を再セットしてください。
  ③しん調節つまみを上下して、炎を調節してください。

① 室温設定つまみ

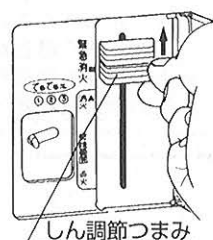
②

3 点火時、または省エネセンサー装置を再セットしたとき、炎が大きくなる前に省エネセンサー装置が作動して、弱燃焼になってしまう場合は、省エネセンサー装置の室温設定の温度が低すぎるためです。

- このような場合は、
  ①「室温設定つまみ」を「**高**」方向へ少し回して、室温設定の温度を高くしてください。
  ②しん調節つまみを押し下げて、省エネセンサー装置を再セットしてください。

4 しんに多量のタールが付着したり、水を含んだりすると、省エネセンサー装置が作動しても、しんが下がらなくなります。**(作動の「カチ、カチ、カチ」という機械音が連続し、乾電池が急激に消耗します。)**

- このような場合は、
  ①速やかに、しん調節つまみを引き上げて消火してください。
  ②乾電池を電池ケースから取りはずしてから、しんの手入れ(16ページ **しんの手入れをする** 参照)をおこなってください。

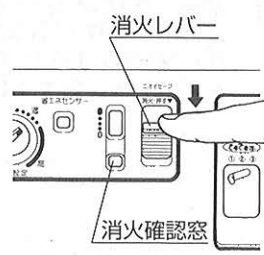
5 乾電池が消耗して電圧が低下すると、省エネセンサー装置が作動しても、しんが下がらなくなります。**(作動の「カチ、カチ、カチ」という機械音が連続します。)**

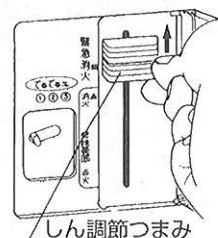
- このような場合は、
  ①しん調節つまみを引き上げて消火してください。
  ②単二形乾電池(4個)を、新しい乾電池に交換してください。

消火のしかた

⚠警告	寝るときや外出するときは、必ず火が消えていることを確認してください。 予想しない事故が発生するおそれがあります。

通常の消火の場合

1 消火レバーを、ゆっくり押し下げる。

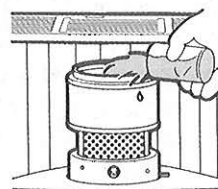
消火レバーを、止まるまでゆっくり押し下げて消火します。
(速く下げると、においが出やすくなります。)

2 消火を確認する。

- においを少なくするため、3～5分程燃焼(炎が一部残る)して消火します。消火を確認してください。
- 消火確認窓の「カラーサイン」の「**赤色**」がなくなったことを確認してください。

緊急の消火の場合

◉しん調節つまみを引き上げる。

扉を開き、しん調節つまみを、「**緊急消火**」の位置まで止まるまで強く引き上げると、消火します。
火が消えたことを必ず確認してください。
(このとき急速に消火させるため、すすや臭気が発生することがあります。)

- **しん調節つまみを引き上げても、操作が重くて、「緊急消火」の位置まで引き上げられず、消火できない場合は、油タンクを取り出し、火が消えるまで燃やしきってください**
- 時間に余裕がない場合は、ガードを開き、燃焼筒の上にコップ一杯(200mℓ程度)の水をかけて消火してください。

水をかけると水蒸気が出たり、ガラスが割れることがあります。あわててヤケドをしないように、手袋をはめるか、手にタオルを巻くなどしてからおこなってください。また、あとで油受けざら内の水の入った灯油を抜き、しん交換が必要です。

- **しんが下がらない原因は、しんにタールがたまっていたり、水を含んでいることがありますので、しんの手入れ(16ページ参照)をおこなうか、新しいしんに交換してください。**

消火後再点火するときの注意

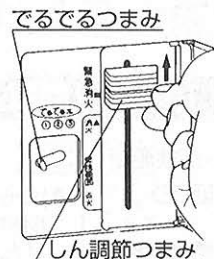
消火後、約5分間は再点火しないでください。燃焼筒が冷えないうちにしんを上げると、生ガスが発生し、激しい臭気がでたり、点火しないことがあります

でるでる芯の使いかた

燃焼筒やしんの劣化などで、しんをいっぱい上げても炎が大きくならないときは、**でるでるつまみ**を操作して、しんの高さの調節ができます。

お願い

- 購入して初めてお使いになるときや、新しいしんに交換したときなど炎が充分に出ているときに、**でるでるつまみ**を②や③へずらすと炎が大きくなりすぎ、すすが発生することがあります。
炎が大きくならない時以外は、**でるでるつまみ**を①で使用してください。
- 不良灯油や変質灯油を使用して、しんに水やタールが付着したときは効果がない場合があります。その場合は16ページ **しんの手入れをする** の項を参照してしんの手入れをしてください。それでも良くならない場合は、しんを交換してください。

1 しん調節つまみを「緊急消火」の位置まで引き上げる。
（しんを下げた状態にします。）

2 「でるでる芯」の溝の中のでるでるつまみを、①から②へ、②から③へずらす。
①から②へ、②から③へずらすことにより、しんの高さを各々約2㎜高くすることができ、炎が大きくなります。
逆に、炎を小さくするときは、③を②に、②を①に変えます。

でるでるつまみの位置	①	②	③
しんの高さ	約8㎜	約10㎜	約12㎜

お願い
でるでるつまみを操作するときに、少し重い部分がありますので、誤ってずらしすぎないように注意しておこなってください。

対震自動消火装置

- **対震自動消火装置は、ストーブ本体が地震（震度約5以上）や強い振動、衝撃を受けたとき、火災などの危険を防ぐために自動的に消火させる安全装置です。**
- **地震によって作動した場合は、周囲の可燃物がたおれていないか、機器の損傷はないか、油がこぼれていないかなど異常がないことを確認した後、再点火してください。**

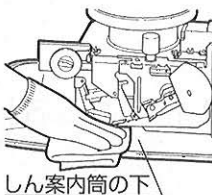
対震自動消火装置の取扱い上の注意

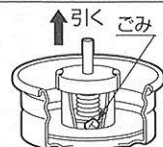
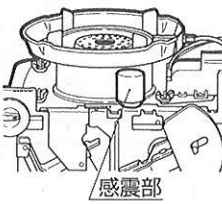
- 通常の使用時には、消火レバーで消火してください。消火の都度に対震自動消火装置を作動させますと、臭気が発生します。
- ストーブを持ち運んだり、ずらしたり、掃除するときなどは、消火レバーで消火した後、置台をゆすって対震自動消火装置を作動させ、しんを完全に下げてからおこなってください。
- ストーブを長い間使用しないときは、対震自動消火装置を作動させ、しんを完全に下げた状態にしておいてください。セットしたまま放置しますと、対震自動消火装置の寿命に悪影響をあたえます。
- ふきこぼれやすい牛乳・鍋物の煮たき（保温）に、ストーブを絶対に使用しないでください。
- しんにタールが付着して固くなっていたり、水を含んでいると、しんの上下操作が重くなり、対震自動消火装置が作動しても消火性能が著しく悪くなり、火災の原因になります。

点検・手入れ

点検・手入れのしかた

点検・手入れをおこなうときは

- **ストーブを消火し、本体の温度が充分に下がってからおこなってください。**
- **手をけがしないように、手袋をはめておこなってください。**
- **対震自動消火装置の取りはずし、分解はおこなわないでください。**

使うたびに

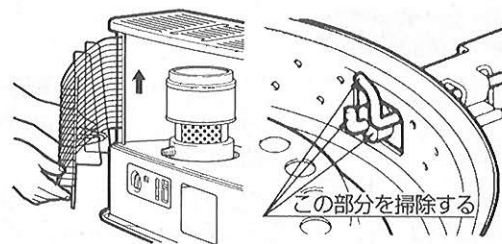
点検箇所	点検内容	処置方法
ストーブの周囲	●ストーブの周囲に可燃物や障害物がありませんか。 [火災の原因になります]	●常に整理・掃除をし可燃物をストーブの周囲に置かないでください。
油こぼれ 油たまり 油にじみ	●油タンク、油受けざら、置台の表面に、油がこぼれたり、たまったり、にじんでいませんか。 [火災の原因になります]	●こぼれたり、たまったり、にじんだ油はきれいにふき取ってください。 ●油タンクの給油口口金の、弁部などにはさまっているごみなどを、取り除いてください。 （図：引く　ごみ）
油漏れ	●油漏れはありませんか。 [火災の原因になります]	●油が漏れている場合は、すぐに使用をやめ、お買い求めの販売店に修理依頼をしてください。
外筒 （ガラス）	●欠けたり、割れたりしていませんか。 [異常燃焼の原因になります]	●お買い求めの販売店に相談して、新しい外筒（ガラス）に交換してください。

点検・手入れのしかた

1箇月に1回以上

点検箇所	点検内容	処置方法
ほこり 燃焼用空気取入れ部（しん案内筒下部）	●反射板や置台にほこりがたまっていませんか。 前板の下の隙間に紙、ビニールなどが入りこんでいませんか。 [異常燃焼や火災の原因になります]	●16ページの 本体の取りはずしかた の1～5項を参照して本体を取りはずし、置台と油受けざらの隙間（**特にしん案内筒の下部**）**のほこり、ごみなどを取りのぞいてください。**電気掃除機で吸い取るのも効果的です。 しん案内筒の下
対震自動消火装置	●しん調節つまみを押し下げてしんを上げてから、置台をゆすると、対震自動消火装置が作動し、そのときしんが下がり、しん調節つまみが**「緊急消火」**の位置に戻りますか。 [確実に消火することを確認]	●しん調節つまみが**「緊急消火」**の位置に戻らない場合は、**しん**、**感震部**の項の点検をしてください。 ●販売店に修理依頼をしてください。

2箇月に1回以上

点検箇所	点検内容	処置方法
乾電池	●点火プラグのスパーク音（メロディー音）は、「ピィー」と鳴りますか。 [乾電池の電圧（消耗）点検]	●音がかすれる場合は電圧が下がっています。 新しい乾電池に交換してください。
燃焼筒	●燃焼筒の細かい穴に燃えかすや、すすが付着していませんか。 [異常燃焼の原因になります]	●ブラシなどを使って、燃えかすや、すすを取り除き、きれいに掃除してください。
しん	●しんの先端にタールが付着して、固くなっていませんか。 **★しんにタールが付着していると、次のような不具合が発生します。** ●消火操作をしても、しんが下がらず、消火しない。 ●しん上下の操作が重く、スムースにできない。 ●点火操作をしても、点火しない。 ●燃焼筒が赤熱しなかったり、燃焼中ににおいがする。	●タールが付着している場合は、16ページ しんの手入れをする に従って、しんの手入れをおこなってください。 **お願い** ●しんの手入れは、風のあたる場所ではおこなわないでください。 ●しんの手入れ中はにおいがしますので、部屋の換気をしてください。 ●しんの手入れをおこなっても効果のない場合は、新しいしんに交換してください。
感震部	●感震部にごみの付着や錆はありませんか。 [対震自動消火装置が正しく作動しません] 感震部	●ごみやほこりは、やわらかい布できれいにふき取ってください。 ●錆が多量に発生している場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
点火プラグ	●点火プラグが、カーボンやタールで汚れていませんか。 ●点火プラグがしんにくい込んでいませんか。 [点火不良の原因になります]	●点火プラグが汚れているときは、下記に従って点火プラグの掃除をしてください。 ●点火プラグがしんにくい込んでいるときは、 しんの修正 をしてください。

●ガードを取りはずし、燃焼筒を取り出してから、マイナスドライバーなどで、点火プラグの電極や碍子部分に付着した汚れを取り除いてください。
●掃除が終りましたら、元どおりにしん調節器に燃焼筒をのせ、ガードを取り付け、乾電池を取り付けて正常に点火するかどうか確認してください。
●点火しにくかったり、点火しない場合は、 しんの修正 をするか、もう一度きれいに掃除し直してください。
又、**しんの手入れ（から焼きクリーニング）**をおこなうと、点火プラグに付着した汚れが取れやすくなります。（16ページ しんの手入れをする 参照）

しんの修正

●燃焼筒を取り出し、しんを上げて点火プラグ近くのしんの側面を内側に、割り箸などで軽く押さえるように撫でて、しんを整える。
●一度しんを下げてから燃焼筒をのせ、点火してください。

しんと点火プラグの間を少し離す

定期点検のおすすめ（2シーズンに1回）

● 長期間ご使用になりますと、機器の点検が必要です。2年に1回程度、シーズン終了後などに、お買上げ店、または、修理資格者［（財）日本石油燃焼機器保守協会（TEL.03-3499-2928）でおこなう技術管理講習会修了者（石油機器技術管理士）など］のいる店などに点検依頼されることをおすすめします

故障・異常の見分け方と処置方法 ―修理を依頼される前に―

故障・異常箇所	原因 ＼ 現象	点火しない・しにくい	炎が大きくならない・消えてしまう	赤火や、すすが出て燃える	消火しない・しにくい	においがする	炎がかたよる	しんが下がらない	しん上下の操作が重い	火の回りが遅い	乾電池の消耗が激しい	省エネセンサー装置が作動しない	処置方法
しん	しんの出過ぎ。	○		○		○							しんを下げて、炎を調節する。
しん	しんの出が少ない。	○	○			○				○			しんの高さを調節する。新しいしんと交換する。
しん	しんに水を含んでいる。又は油受けざら内に水が入っている。	○	○					○	○	○			しん調節器からしんをはずしてよく乾燥してからしん調節器に取り付ける。油受けざら内の水を抜く。
しん	しんにタールがついている。	○	○		○	○		○	○	○		○	しんの手入れ（から焼きクリーニング）をする。または、新しいしんと交換する。油受けざら、油タンク内の灯油を正常な灯油に交換する。
燃焼筒	燃焼筒がしんの上にのっている。			○		○	○	○	○			○	点火してから必ず燃焼筒つまみを持って左右に2〜3回動かす。
燃焼筒	しん調節器と燃焼筒との間にすき間がある。			○		○	○						しん調節器の上面にタールがついていないか。又は燃焼筒下部に不揃いがないかを調べる。
燃焼筒	外筒（ガラス）にひびや割れがある。			○		○	○						外筒（ガラス）を交換する。
燃料	灯油が変質している。（汚れた油やポリ容器で1年間持ち越した油など）	○	○		○	○		○	○	○			しんにタールがつく原因となるので正常な灯油に交換する。
燃料	灯油が水やごみを含んでいる。	○	○					○	○	○			正常な灯油に交換する。
給油口口金	給油口口金が間違っている。	○	○										給油口口金を正しいものに取り換える。（7ページ参照）
乾電池	乾電池が消耗している。	○										○	新しい乾電池に交換する。
乾電池	正しく入れていない。	○									○	○	正しく入れ直す。
点火装置	点火装置のコードがはずれている。	○											コードがはずれているときは正しく差し込む。その他は販売店に連絡する。
点火装置	点火装置がショート（短絡）している。	○									○		ショートしないようになおす。不明の時は販売店に連絡する。
点火装置	点火プラグの電極が正常でない。	○											点火プラグが破損していないか確かめる。（破損している場合は販売店に連絡する）
点火装置	点火プラグがしんにくい込んでいる。点火プラグが汚れている。	○											しんの修正をする。点火プラグを掃除する。（13ページ参照）
省エネセンサー	省エネセンサーのコードがはずれている。											○	コードの端子部と差し込み部の色を合わせて差し込む。その他は販売店に連絡する。
置台	製品内部に、ほこり、ごみがたまっている。			○									製品内部を掃除する。（13ページ参照）

● この表以外の不具合があるときは、お買上げの販売店にご相談ください。

- 替えしん、外筒(ガラス)、燃焼筒などの交換部品が必要な場合は、お買上げの販売店にご相談ください。
- 部品が販売店にない場合は、別紙の [お客様相談窓口一覧] までお問い合わせください

⚠注意

しんなどの交換部品は、必ずトヨストーブ純正部品(指定部品)を使用してください。
純正部品を使用しないと、ストーブの性能を損なうばかりでなく、故障や予想しない事故が発生するおそれがあります。

部品交換のときの注意

- ご自分で部品交換される場合は、下記の項目を守り、やけどや感電、けがなどしないよう注意しておこなってください。
  ①手をやけどしないように、ストーブは消火し、温度が充分下がるまで待ってください。
  ②感電しないように、乾電池は必ず電池ケースからはずしてください。
  ③手をけがしないように、手袋をはめてください。
- 不完全な修理は危険です。お買上げの販売店か、(財)日本石油燃焼機器保守協会でおこなう技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)などのいる販売店で修理依頼されることをおすすめします

しんの交換のしかた

トヨストーブ純正適合しん

トヨ耐熱しん第27種	商品コード:11023307

しんの交換方法・注意内容は、耐熱しんに添付されている取扱説明書をお読みください。

JIS適合検査合格品はこのマークが貼ってあります。マークの色彩は、白地に赤インクで表示されています。

外筒(大)の交換のしかた

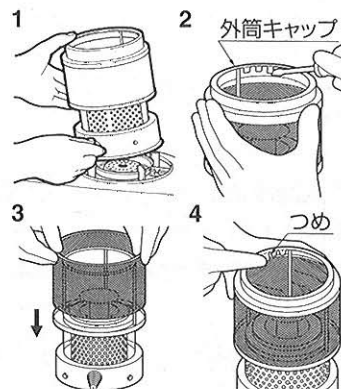
適合外筒(大)	商品コード:11020802

- 外筒(大)が割れたり、曇りや汚れがふき取れない場合は、交換してください。
  外筒(大)はガラス製ですから、けがをしないように、取り扱いに注意してください。

1 ガードを開いて、燃焼筒を取り出します。

2 外筒キャップの内側のつめを、マイナスドライバーなどで起こし、外筒キャップを取りはずしてから、古い外筒(大)を取りはずします。

3 新しい外筒(大)を、ゆっくりとはめ込みます。

4 2項ではずした外筒キャップを燃焼筒ガードにかぶせ、外筒キャップのつめを3箇所づつ押さえ固定します。

燃焼筒の交換のしかた

燃焼筒	商品コード:11122206

- 燃焼筒の内炎筒・外炎筒などが変形した場合や、外筒(ガラス)が割れたりした場合は、お買上げの販売店、または、別紙の [お客様相談窓口一覧] までお問い合わせください。

点火プラグの交換のしかた

- 点火プラグを交換するときは、お買上げの販売店または、別紙の [お客様相談窓口一覧] までお問い合わせください。

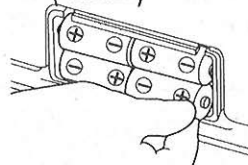
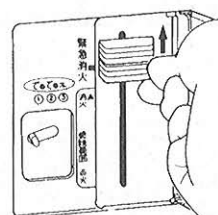
乾電池の交換のしかた

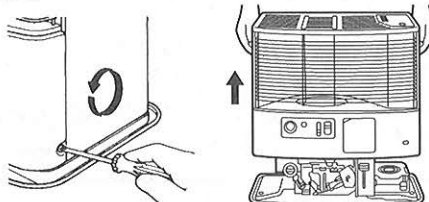
- 6ページ [乾電池を取り付ける] を参照して、必ず4個とも市販の新しい乾電池〔単二形乾電池〕に交換してください。
- 取りはずした古い乾電池は、表示してある使用推奨期限内は、電池能力が残っていれば他の製品に使用できますので、再利用されることをおすすめします。

1 油タンク内の灯油を抜き取る。

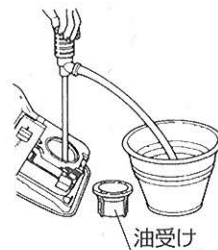
ストーブから油タンクを取り出し、市販の給油ポンプ（手動式）で、油タンク内の灯油を抜き取ってください。

- わずかに残った灯油は、油タンクに給油口口金を取り付け、油受けを本体の中から取り出して給油口口金に押し当て、油タンクを上下にゆすって抜いてください。

2 電池ケースから乾電池を、取り出してください

3 扉を開け、しん調節つまみを「緊急消火」の位置まで引き上げてください。

4 ガードを開いて、燃焼筒を取り出してください。

5 本体の両側面と背面にある止めねじ3本を、取りはずしてください。本体を、ゆっくりと上方に持ち上げて取りはずしてください。

6 油受けざら内の灯油を抜き取る。

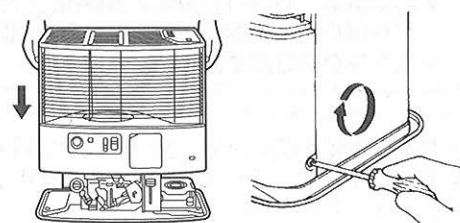
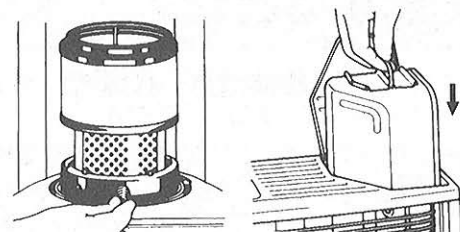
油受けを取り出してから、油受けざら内の灯油を市販の給油ポンプ（手動式）で抜き取ってください。

- 油タンク、油受けざらに水やごみが残ったまま保管すると、錆や穴あきの原因になります。きれいな灯油ですすぎ洗いをしてください。残った灯油は、布切れなどで吸い取ってください。

7 「感震部」を押して消火装置を作動させて、「温調作動板」がセットされていることを確認してください。

■温調作動板のセット状態

お願い

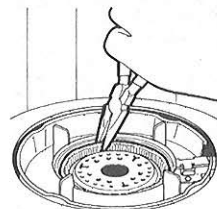
「温調作動板」がセットされていないと、省エネセンサー装置のカラーサインが正しく動きませんので、必ずセットしてから、本体をかぶせてください。

8 本体をかぶせてください。本体両側面と背面を、止めねじ3本で固定してください。

9 燃焼筒を正しくセットし、ガードを閉じてから、油タンクを入れてください。

10 しんの手入れをする。（から焼きクリーニング）

お願い

- しんの手入れは、風があたる場所ではおこなわないでください。
- しんの手入れ中はにおいがしますので、部屋の換気をおこなってください。

- しんの先端が固くなっている時は、ラジオペンチなどで固い部分を軽くつぶしてからおこなってください。

①通常の点火操作をして、正しく燃焼させてください。
②火力が小さくなったら、しんを一杯に上げて自然に消火するまで燃やしきってください。

11 電池ケースから乾電池を取りはずす。

お願い

- 乾電池を取りつけたまま保管すると、液漏れしてストーブを腐食させることがあります。

12 対震自動消火装置を作動させる。

対震自動消火装置を作動させ、しんを下げた状態にしてください。

13 点検、掃除をする。

①12、13ページの 点検・手入れのしかた の項目にしたがって、点検、手入れ、掃除をしてください。
②ストーブの各部品は、よく掃除して、いたんでいるものは新しいものに交換してください。
③ストーブの汚れは、ぬれた布でふいて落とし、乾いた布で水気を取り除いてください。

14 収納する。

①口金開閉具は紛失しないように、本体背面の油タンク側上部にある「T」形穴に引っ掛けて保管してください。
口金開閉具についた灯油は、よくふき取ってください。

②包装箱に入れて、湿気の少ない場所に保管してください。
「取扱説明書」や「保証書」も忘れずに大切に保管してください。

お願い

- **高温多湿、直射日光の当たる場所には、保管しないでください。錆が出たり、樹脂部品が変形する原因になります。**
- **油タンクは灯油を抜き、本体にセットして保管してください。**

- **灯油は変質を防ぐため、翌シーズンに持ち越さない(使いきる)ようにしてください。**
- 取りはずした乾電池は表示してある使用推奨期限内は電池能力がのこっていれば他の製品に使用できますので、再利用されることをおすすめします。

廃棄するとき

16ページ 保管(長期間使用しない場合) の1～6項を参照して、油タンク、油受けざら内の灯油を抜き取り、電池ケースから乾電池を取りはずして廃棄してください。

仕様

項目		仕様	項目			仕様
型式の呼び		RC-325SE	外形寸法(置台を含む)		高さ	454.5mm
種類		自然通気形開放式石油ストーブ			幅	562mm
		しん式･放射形			奥行	279mm
点火方式		電池点火〔単二形乾電池4個･別売〕	質量			約10.5kg
使用燃料		灯油(JIS1号)	しん	種類		普通筒しん
最大燃料消費量		0.313L/h				トヨ耐熱しん第27種
暖房出力		3.22kW		呼び寸法	内径	85mm
油タンク容量		4.0L			厚さ	2.5mm
燃焼継続時間		約13時間			吸上量	200%
			安全装置			対震自動消火装置(しん降下式)
			附属品			口金開閉具(1個)

保証について

● 添付しております保証書は販売店で所定事項を記入してお渡ししますので、お受け取りください。記載内容をご確認のうえ大切に保管してください。
★保証期間は、お買上げの日より１年間です。

お願い

つぎのような原因による故障および事故につきましては、保証の対象となりませんのでご注意ください。
(１)変質灯油や不純灯油など、また灯油以外の燃料を使用したための故障や事故。
(２)ほこりや汚れなど、手入れのゆきとどかないためにおこった故障や事故。
(３)純正部品以外のものを使用したり、しんにタールが付着したり、水を吸ったり、乾電池の電圧不足による故障。
(４)消耗品(乾電池、しん)の故障。
(５)この取扱説明書や、注意書、ラベル類による指示、危険・警告・注意・お願い事項が守られず、誤った使い方をされた場合の故障や事故。
● その他詳細の保証内容については、保証書の記載内容をご覧ください。

修理を依頼するとき

● 「故障・異常の見分け方と処置方法」(14ページ)に従って、お調べください。
直らないときは、ご使用を中止し、必ずお買上げの販売店にご連絡ください。
● ご連絡いただきたい内容は次の通りです。
①品名…石油ストーブ(自然通気形開放式石油ストーブ)
②型式の呼び…RC-325SE
③お買上げ年月日
④故障の状況(できるだけ具体的に)
⑤おなまえ，おところ，電話番号

● 修理に際しましては、保証書をご提示ください。保証書の規定に従って、販売店が修理させていただきます。
● 保証期間が過ぎていても、修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。
● 修理料金は、技術料，部品代，出張料などで構成されています。

⚠注意	修理・引越しなどで、ストーブを運搬される場合は、電池ケースから乾電池を取りはずして、油タンクを抜き、油受けざらの灯油を必ず抜いてください。 運搬の途中に灯油がこぼれ、周囲を汚すおそれがあります。	指示

補修用性能部品について

● 石油ストーブの補修用性能部品の保有期間は製造打切り後６年です。
● 補修用性能部品とは、製品の機能を維持するために必要な部品です。

故障・修理の際の連絡先

アフターサービスについてわからない場合は、お買上げの販売店、または、もよりの お客様相談窓口一覧 (別紙参照)までお問い合わせください。